

[調査報告] フィリップ・ロス・フォックスウェルによる
オーラル・ヒストリーの翻訳と解説
ー日本宣教30年をふり返って(1)

岩田三枝子

キリストと世界 30号抜刷 2020.3.1

[調査報告] フィリップ・ロス・フォックスウェルによる オーラル・ヒストリーの翻訳と解説 —日本宣教30年をふり返って (1)

岩田三枝子

(東京基督教大学国際キリスト教学専攻准教授)

初めに

本資料は、1991年にホイートン大学ビリーグラハム・センターのアーカイブ室¹により、フィリップ・ロス・フォックスウェル (Philip Ross Foxwell) に聴き取りを行ったオーラル・ヒストリー記録全文の翻訳とその解説である。オーラル・ヒストリーでは、フォックスウェルの幼少期から、マジックとの出会い、信仰生活、宣教師となる経緯や30年間に渡る日本宣教の様子が語られている。今号ではその前半部分を紹介し、次号で後半部分を紹介する予定である²。

フォックスウェルは1914年アメリカに生まれ、1944年にホイートン大学大学院を卒業後、戦後間もない1948年に妻ジェーン³と共に宣教師として来日した。1949年に東京基督神学校を設立し、その後1979年にアメリカに帰国するまで30年以上にわたって日本の神学教育に携わり、2013年に亡くなった。

フォックスウェルが創設した東京基督神学校 (1949-2011) の主な沿革は以下のとおりである。

1949年 東京基督神学校設立 (東京都杉並区堀之内)

1951年 日本基督神学校と改称

1968年 東京都東久留米市氷川台に移転

1 The Billy Graham Center Archives at Wheaton College, <https://www.wheaton.edu/about-wheaton/museum-and-collections/billy-graham-center-archives/>

2 貴重な資料であるフォックスウェルによるオーラル・ヒストリーの翻訳と掲載を快く許可してくださったビリーグラハム・センターのアーカイブ室に心からの感謝を申し上げます。

3 Jane Alice Foxwell. 1945年にフィリップ・フォックスウェルと結婚。父はホイートン大学学長 (1926-44) を務めた J. Oliver Buswell (1895-1977)。

- 1980年 東京都国立市に移転。日本基督神学校、共立女子聖書学院、東京基督教短期大学の3校が合同し、学校法人東京キリスト教学園に統合（日本基督神学校は東京都専修学校に）
- 1981年 東京基督神学校と再度改称
- 1989年 千葉県印西市に移転（千葉県専修学校）
- 2012年 東京基督教大学（1990年設立）に統合され、博士前期課程を含む4年間の教会教職課程となる（2014年に博士後期課程設置）

フォックスウェルを知る主な資料としては、自伝 *Philip Foxwell: Missionary Magician* (Pasadena: William Carley Library, 1989) がある。この自伝ではフォックスウェルの幼少時代から青年期にかけてのマジシャンとしての生活が中心に語られ、フォックスウェルの宣教師としての側面にはさほど光が当てられていない。マジックを用いた日本宣教の様子の記載もわずかに見られるものの、東京基督神学校設立の経緯や様子は触れられていない。その他の資料には、フォックスウェルが制作した日本を紹介するビデオ *Japan's Open Door* がある。フォックスウェルの手品ショーの収入によって撮影費用をまかなったとする本ビデオは30分間の構成で、1950年代の日本の共産主義、天皇制、日本文化の紹介を中心にした映像に、フォックスウェル自身によるナレーションの解説が添えられている。この映像には日本基督神学校の授業風景や卒業式の様子も数分間登場するものの、カリキュラム等の詳細については触れられていない。

他方、東京基督神学校を知る資料には、『東京キリスト教学園のあゆみ』（三校沿革史編纂委員会、1989年）、『東京キリスト教学園のあゆみ—1989～2000年』（学園のあゆみ編集委員会、2002年）、下川友也編『東京基督神学校 草創期史』（東京基督神学校教授会、2003年）、東京基督教大学 website「東京基督神学校について」（http://www.tci.ac.jp/theology_department/graduate/tcts）等があり、同校の創設の経緯や沿革をたどることができる。

本オーラル・ヒストリーでは、フォックスウェルの幼少期から始まり、宣教師としての召命、日本宣教開始の様子、東京基督神学校設立の背景、さらに日本宣教の喜びや困難等が語られている。77歳となるフォックスウェルの語りは、時には話題が重複し、時には脱線し、また口ごもったり、応答が質問に対応していない場面もあるが、日本からアメリカに帰国後12年になるフォックスウェルの日本宣教に関わる記憶はなお鮮明であり、日本の宗教や文化への鋭い視点を備え、そしてウ

イトに富んでいる。本オーラル資料は、フォックスウェルの個人史としての価値にとどまらず、宣教師自身の視点から見た、戦後日本の初期宣教の様子、また東京基督教大学の源流の一つとなる東京基督神学校の黎明期を知る貴重な一次資料である。東京基督教大学設立 30 周年、そして東京基督神学校設立 70 周年となる年にふさわしい資料紹介であると考ええる。

本オーラル・ヒストリーは長文となるため、今号と次号にわたって紹介を行いたい。今号の前半部分では、フォックスウェルの宗教的な家庭環境、手品との出会いや、ホイートン大学在学中の様子、日本宣教開始期の状況、また東京基督神学校開校の経緯等に触れられている。インタビュー後半部分の東京基督神学校の様子や、東京キリスト教短期大学及び共立女子聖書学院との合同に寄せたフォックスウェルの思い、また日本文化や天皇制への視点等については、次号で紹介したい。

フィリップ・ロス・フォックスウェルによるオーラル・ヒストリー⁴ 前編

日時：1991年5月17日

場所：ホイトン・カレッジ ビリーグラハム・センター

インタビュアー：ポール・A・エリクソン (Paul A. Ericksen)

幼少期の宗教的家庭環境

エリクソン フォックスウェル牧師、今回のインタビューはこれまでのものとは少し異なると思います。すでにこれまでご自身に関する多くのことを、著書 *Philip Foxwell: Missionary Magician*⁵ で記しておられますが、インタビュー開始にあたり、人生の初めの部分に戻ってお話を伺いたいと思います。あなたが育った家庭の宗教的環境について少しお話いただけますか？

フォックスウェル 私の父は、日曜学校を始めました。また母は非常に信仰深い女性でした。私の人生の初めに最も大きな霊的影響を与えたのは、母です。例えば、(ハンドレー・カー・グリーン・モール⁶のローマ書やアンドリュー・マーレイ⁷などの注解書の中に、今でも時々母のメモを見ることがあります。父も日曜学校を始めるなどの活動はありましたが、父はビジネスなどに関わる事が多く、遠い存在となっていたこともあり、家庭での強い霊的養いは母から受けました。

4 インタビューには重複や冗長な箇所が存在するが、オーラル・ヒストリー資料保存としての側面から、記者による編集や省略は行わず、再録原文テキストに忠実な訳出を行った。ただし、原文テキストに記録されている「ああ」などの間投詞や、「ええ」といった相槌、連続した箇所における同じ言葉の繰り返し、また「休憩にしましょう」「(テープレコーダーを一時止める)」といったインタビュー内容に直接関係しない箇所は、内容に影響しない範囲において削除した。また、読みやすさを考慮して、原文にはない小見出しと段落を加えた。なお、本文中で「()」として補足されているものは原文上での補足であり、脚注による補足説明は記者によるものである。

5 Philip Foxwell, *Philip Foxwell: Missionary Magician* (Pasadena: William Carley Library, 1989).

6 ハンドレー・カー・グリーン・モール (Handley Carr Glyn Moule 1841-1920)。聖公会の神学者。

7 アンドリュー・マーレー (Andrew Murray 1828-1917)。南アフリカの牧師。

エリクソン お母様は、どのようなことをされましたか？

フォックスウェル 家庭礼拝を行っていました。私たちは共に祈りました。私たちが住んでいたインディアナ州のサウス・ベンドの町に面白い聖書の先生がいたのですが、一緒にその先生を訪問したり、たまたま都合が合えば誰かを誘って一緒に訪問しました。著書の中でも触れましたが、これは、母と私の関係を表す際に、重要な鍵となる点です。

世界大恐慌がありましたが、私には裕福な家庭出身のビジネスパートナーがいました。彼は、もし自分のお金が底をついた時には、自分の母親に助けを求めることができました。

ある時、このシャーウッド・ドッジというビジネスパートナーが私にこう話しかけました。「君は日曜学校で教えているね？」私が「そうだ」と答えると、彼は、「君は、『我らに日用の糧を与えたまえ』という祈りを教えているね？」と言います。私が「そうだ」と言うと、彼は「僕が君にお金を貸してあげないと君は食べることができないのに、どうしてその主の祈りが意味のないことだと認めないんだ？」と言ったのです。

その後、私は母にその話をしました。母と私はそれまでは夜通しの祈りをしたことはありませんでしたが、とにかく、母と私は夜通し祈りました。私たちの祈りは、「神様、お助け下さい」という祈りではなく、「神様、シャーウッドにどのように伝えれば良いでしょうか？あなたの栄光が汚されています。私たちの日毎の糧を与えてください、と祈り、そしてシャーウッドからお金を借りなければならないことをどのようにシャーウッドに伝えれば良いでしょうか？」という祈りでした。

私たちが夜通しの祈りを終えて、幸福感や特別の高揚感を感じたということはありませんでしたが、祈り終わった土曜日の朝、会ったことも聞いたこともない二人の男性から長距離電話がかかってきました。当時としては非常に高額な給与が提示され、マジシャンとしての私とすぐに仕事をしたい、という話でした。

このエピソードは、母と私の関係を示す一例です。父と私にはこのような経験はありませんでしたが、私の母は、「これは、神様の栄光に関わることです。さあ、祈りましょう」という人でした。「神様、あなたの栄光はここでは危機に瀕しています。私たちは何をなすべきでしょうか？」と。

私はシカゴに行き、この電話の男性たちと会い、契約書にサインをしました。私は電話に対応した時には放心状態で、彼らの名前や彼らがどこにいるのかを覚えていなかったのですが、この二人を知っているという人を知っていたので、彼らを見

つけ出すことができました。それは土曜日だったと思いますが、月曜日の朝には私にアッパー・ペニンシュラ（ミシガン）まで400マイル北上してほしいという話でした。彼らはマジシャンで、1週間に12の町の学校でマジックをしていましたが、一人が病気になる、突然その代役が必要となったのです。ですから、私が代役になりました。奇妙な状況でした。彼らは、私がベン・バーガー⁸ではないことを暴露しないでほしいと望んでいました。私はその場所へ行って、マジックを行い、そして人々に「皆さん、私は代役ですよ」と伝えました。

私を雇った人たちは、私をととても気に入って、給与も上げ、永続的に雇ってくれたことで、私もとても良い結果を得ました。けれどもそれは、私たちが考えていたような、「神様の存在が窮地に陥っている。私たちは何かをしなければならない。私たちは夜を徹して祈る必要がある」という、私が母との関係を示す答えではありません。

エリクソン 興味深いですね。シャーウッド・ドッジはどのような様子でしたか？
フォックスウェル 私は彼を、ドライバー兼うさぎの世話係のアシスタントとして雇いました。彼は私のパートナーとなり、私は彼に給与を支払いました（私は車を持っていなかったのですが、彼は持っていました）。彼が出演契約交渉担当者として私と一緒に旅をするために、彼に給与の三分の一を払いました。

彼はタバコをやめ、聖書の言葉を暗唱しました。私たちは親しくなり、私は彼に、キリスト教的な書物を読ませました。私が知る限り、酸欠状態の時にイエス・キリストが酸素テントの中にいる、という状況でもなければ彼がキリストを必要とすることは決してない、ということが私の人生の大きな悲しみでした。彼はキリスト教について多くのことを知りました。一度彼は冗談で、自分が住んでいるエバンストンはモダニズムでごった返している場所だと語っていました。彼は才気ある若い男性で、広告業の世界を駆け上がりましたが、断固として献身しないのです。彼はキリスト教について十分に知っていたので、酸素テントの中に手を伸ばすこともできましたが、そうしませんでした。とにかく、私たちは親しくなり、彼は私と一緒にいる間は、キリスト教の書物を読み、キリスト教をよく知るようになりました。

エリクソン もう少し話していただけますか？

フォックスウェル 彼は20年前に亡くなりました。彼はタバコを吸い、お酒を飲んでいました。人間的に言えば、惨事です。彼は、私よりも良い体格でしたし、長

8 ベン・バーガー (Ben Berger 1897-1988)。ミネアポリスのビジネスマン。

生きすべき人でしたが、1930年代の頃には、タバコの害がどれほどのものかについては認識されておらず、タバコとお酒の組み合わせによって、50代の頃に彼は心臓発作で亡くなりました。彼は70代でも、それ以上でも容易に生きることができたはずです。

キリストへの献身

エリクソン あなた自身のキリストへの献身について話していただけますか？

フォックスウェル 世界大恐慌の困難が、私の霊的成長と進展とを助けてくれたと思います。私は、自分の町のファースト・メソジスト教会で育ちました。けれども、何の神学的理解もなく、人々は真の満足を感じていませんでした。後に、私がこの教会を訪れた時、日曜学校の資料では、貧しい少年であるヨシフ・スターリン⁹が善や物質を作り出してくれると称賛していました。

理由はわかりませんが、私が高校生の時、両親は近所の小さなバプテスト教会に通い始めました。このバプテスト教会の牧師は非常に信仰深い方で、私の人生に大きな影響を与えてくれました。この教会で、ある時新生についての説教がなされ、私は、「それが何であるかは完全には確信していないが、それが何であれ、私はそれを得ていない」と考えました。この新生についての説教に促され、私は通路を歩いて講壇の前に進み出ました。

このサウス・ベンドのカルバリー・バプテスト教会の牧師は非常に信仰深い方で、個人的にもこの牧師と友人となりました。多くの個人的な、また人格的な養いを彼から受けたと思います。私はこの教会で、若い人々の間で積極的に活動を行うようになりました。私は、牧師のダニエル・ダンカンを非常に尊敬していて、彼の教団的背景がどのようなものであるにせよ、私はただそれを受け入れていました。バプテストであった彼は、高校生の私をカルバリー・バプテスト教会に加えてくれました。

高校を卒業して1年が経ち、私はカルバリー・バプテスト教会で朝の礼拝説教を行いました。牧師が北バプテスト・コンベンションに行く際に、私が朝の礼拝の責任を担うにふさわしいとされたからです。高校を卒業して1年後です。おかしなことですが、私は今でもこの頃の説教原稿を持っています。若い頃、私は多くの題

9 ソビエト連邦第2代最高指導者ヨシフ・ヴィッサリオノヴィチ・スターリン (1878-1953) を指している。

材を一つの説教に詰め込む傾向があったと思います。ビリー・グラハム¹⁰と話をする機会があった時、彼は、「いいかい、ポイントは一つ、で十分な時もあるよ。一つのポイントが全てだよ」と言っていました。一方で、私の初期の説教は、たくさんものを詰め込みすぎていました。それが私の出発点でした。

また、(ロバート・トーマス・) ケッチャム¹¹という敬虔な方が、特別な集まりからサウス・バンドに来るようになりました。私は非常に彼に感謝して、彼が住んでいたインディアナ州のゲイリーまで彼を時々車で送って行くことができました。彼は私の人生に影響を与えてくれました。カルバリー・バプテスト教会のダニエル・ダンカンと、ロバート・T・ケッチャムの二人は、高校生の私に影響を与えてくれた人たちです。

エリクソン あなたがマディソンで生まれたという記事を読みました。

フォックスウェル 私の父は、ウィスコンシン大学に行き、私が生まれた時にはマディソンに住んでいました。

エリクソン あなたが生まれたどのくらい後に、家族はインディアナに引っ越したのですか？

フォックスウェル 私の父は、レミングトンランド社に勤めていました。父は、マディソンからミルワーキーへ、そしてミルワーキーからサウス・バンドへと移り住みました。私が8年生の時に、家族はインディアナ州のサウス・バンドに移って来ました。私のマジック人生は、インディアナのサウス・バンドに住んでいた8年生の時に始まったのです。ですから、ウィスコンシンは生まれた場所です。妻が生まれた場所も思い出そうとしているのですが、妻は多分……

エリクソン ミネアポリスですね。

フォックスウェル そうです。彼女の父親がミネアポリスで牧会をしていて、ミネアポリスで生まれました。

ホイトン・カレッジ入学

10 ビリー・グラハム (Billy Graham 1918-2018)。アメリカのノースカロライナ州出身のキリスト教伝道師。1943年ホイトン大学を卒業。1950年にビリー・グラハム福音伝道協会を設立し、日本でも1956、1967、1980、1984年にビリー・グラハム国際大会が開催された。

11 ロバート・T・ケッチャム (Robert T. Ketcham 1889-1978)。バプテスト派の牧師。著書に *I Shall Not Want* (Chicago: Moody Press, 1953)。ほかがある。

エリクソン ホイートン時代のことに移りたいと思いますが、ホイートンの最初の印象はどのようなものでしたか？

フォックスウェル ノーマン・ルイスという親しい友人がいました。私は3回分の夏学期をムーディ聖書学院¹²で過ごしていましたが、ノーマン・ルイスからホイートンに来るように勧められて、訪ねてきました。キャンパスを訪れ、ノーマン・ルイスの影響もあり、ホイートンに興味を持ちました。

けれども、最終的な状況は通常とは少し違ったものでした。私は、プロのマジシャンとして働いて十分な蓄えがあったので、そのエンターテイメントの仕事はやめて、キリスト教奉仕のために準備しました。そして、ムーディ聖書学院の学部長に手紙を書きました。「私はこの学校にとどまり、最後まで学びを終了したいと考えています」。私は3回分の夏学期をそこで過ごしていました。「学びは多少遅れます」と私は手紙に書きましたが、学部長は手紙の返事をくれませんでした。後になって、学部長は返事を書くことを少々苦手としているとわかりましたが、手紙の返事はなく、私はムーディのサマースクールに入り、夏にホイートンで学びをスタートしました。

エリクソン それは、1940年ですか、38年ですか？

フォックスウェル 1938年の夏だと思います。ホイートンで、一夏と3年間の学びをしました。ノーマン・ルイスが私をこのキャンパスへと連れてきました。彼と私は、生涯にわたる友人となりました。彼は、いまでも世界宣教U.S.センターにいます。彼は、南アメリカへの宣教師でした。私たちは今に至るまで、生涯の友人です。彼が、私をここホイートンへと連れてきて、ホイートンを紹介してくれたのです。

ホイートン・カレッジでの学び

エリクソン ホイートンはいかがでしたか？ ここに来た時、どのように感じましたか？

フォックスウェル 私の知っているクリスチャンたちは、ホイートンに感謝し、敬意を払っていたと思います。ホイートンは、まさにクリスチャン・カレッジでした。

12 ムーディ聖書学院 (Moody Bible Institute)。1886年、アメリカのシカゴにドワイト・ライマン・ムーディ (Dwight L. Moody 1837-99) によって設立された。日本人では、中田重治、木村清松、中田羽後、等が学んでいる。

私は、ムーディ聖書学院で幸せでしたし、学び、成長していました。ムーディ聖書学院での生活が嫌になったのではありません。良いものだと感じていました。私をホイートンへと導いた人間的な要素は、私が学部長から手紙の返事をもらわなかったことです。先ほども触れましたが、「私は遅れますが、ここに来て、学びを終えたいのです。しかし遅れます」という手紙に、何の返事もなく、私は困惑しました。後ほど、特にこの男性が、手紙の返事をするのが少々苦手な人であることがわかりました。とにかく、私は神様があらゆる類いの摂理を用いられ、神様が望まれる場所へと私たちを導かれる方であることを信じています。

私はホイートンに来たときに、大きな強みがありました。私は1932年に高校を卒業して、1938年の夏にホイートンに来ました。私は学びに飢えていました。夏に、ホイートン・カレッジでシニアの方々と一緒に旧約聖書概論のクラスを取りました。この方々にとっては卒業するために必須の科目でしたが、私にとっては、それは肉であり飲み物でした。いつもそうだということではありませんが、アカデミックな雰囲気から離れていると、そういうこともあります。私の場合は、この夏の旧約聖書概論が非常に興味深く、とても良い成績を収めました。90点か、95点でした。この夏、とてもよく勉強しました。アカデミックな状況から離れていたことは、私にとってはよかったです。一度アカデミックな雰囲気から出ると、二度と戻ってこない若い人々もいます。けれども、私の場合はとてもうまくいきました。素晴らしい夏でした。90点を三つと95点を一つ取りました。つまり、良い成績です。このようにしてホイートンの夏を旧約聖書概論で開始しました。

エリクソン 誰がこのクラスを教えていましたか？

フォックスウェル その夏にコロンビア・バイブル・カレッジから来たウィック・ブルーモール（・ジュニア）¹³でした。その前は、その時にはホイートンでは教えていなかったメルル・テニー¹⁴でした。彼は試用期間だったのかもしれませんが、ゲスト講師でした。私は彼が好きでした。後になり、彼と個人的にも友人になりました。

エリクソン 海外での経験の視点からホイートンでの教育を振り返ってみて、特に

13 ウィック・ブルーモール Jr. (Wick Broomall, Jr. 1902-76)。プリンストン大学で学位を取得し、現ダラス神学校、現サウザン・バイブル・カレッジ、コロンビア・バイブル・カレッジ等で教鞭を執る。

14 メルル・テニー (Merrill C. Tenney 1904-85)。アメリカのマサチューセッツ出身の新約学、ギリシャ語の学者。著書に *New Testament Survey* (Grand Rapids: Eerdmans, 1961)。ほかがある。

有益な影響を受けた科目や教授はありましたか？

フォックスウェル その質問には、この前置きで答えたいと思います。私は、聖書専攻を取らないように、と勧められていました。私はムーディ聖書学院でかなりの単位を取ってきており、聖書専攻は取らないように、と勧められたのです。4年間の学業が続けられるだけの蓄えがあるかどうか、私はかなり心配していました。その時、私は少なくとも、聖書専攻をやりたいと主張するに十分なほど、キリスト教的なものに関心を持っていましたが、聖書専攻にすることを推奨されませんでした。

エリクソン アドバイザーの助言ですか？

フォックスウェル アドバイザーの助言です。彼らの立場は正しいと思います。けれども、私の心配は、自分の蓄えが、暑い日の雪だるまのように溶けていくということでした。多く蓄えたと考えていましたが、蓄えはあっという間になくなるのです。4年間足りるかどうかわかりませんでした。私は、「聖書専攻にしたい」と考え、聖書専攻にしました。

聖書専攻として、私はヘンリー・C・シーセン¹⁵のクラスをたくさん取りました。その場所を離れる前に、彼の試験などを作成するアシスタントの一人となりました。ヘンリー・シーセンは私の人生に多くの影響を与えてくれた教師の一人です。聖書専攻の教師のもとで学んでいたのですから当たり前ですが。私は、ロバート・ストーンに対しても、暖かさや尊敬の思いを持っています。後でわかったのですが、彼と私は実は同じ年齢でした。

私はすでに学校を卒業し、ショー・ビジネスをしてから学校に戻ってきたので、普通の新入生よりも年上でした。ですから、ギリシャ語の最初の学期は悲惨で、溺れ死にそんな思いでした。何年もショー・ビジネスをしていたので、「不定詞」「動名詞」「分詞」といった用語は、私にとってほとんど無意味なものだったのです。ボブ・ストーンのカリシヤ語が8時にあり、同じ課がお昼にもう一度行われていました。それで私はクラスに行って、次の課でやるべきことを確認していました。もし彼が優しさや忍耐を持っていなければ、降参していたと思いますが、彼は、私とともに歩んでくれました。私たちは今に至るまで個人的な友人です。彼の妻と私も連絡を取り合っていて、最近彼女が私達を訪ねてきてくれました。彼の優しさや忍耐によって助けられました。

15 ヘンリー・シーセン (Henry Clarence Thiessen 1883-1947)。ダラス神学校、ホイートン大学等で教鞭を執る。著書に *Lectures in Systematic Theology* (Grand Rapids: Eerdmans, 1949)。ほかがある。

最終的には、私はギリシャ語で95点を取ったと思います。最初の時点では、おそらく2回目で合格できるだろうと考えていた私は、ついに日本でギリシャ語を教えることになりました。私は大学院に在籍し、ビジネスの世界に少しだけ戻り、成績についてはあまり注意を払っていませんでした。ギリシャ語で95点が必要になりましたが、私はギリシャ語で95点を取れるような学生ではなく、シーセン教授のところへ行って、「先生、もし私がセイヤー (*Thayer's Greek-English Lexicon*) のテストを全て受けたら、私に95点を与えることは慈善だと思いますか?」と尋ねました。私は彼の足を引っ張らないと彼を説得しました。私は彼に、「慈善は必要ありません。慈善が欲しいではありません。私に95点を与えることが公平だと思いますか」と聞きました。私は、成績には注意を払っていなかったのに、大学院の成績でその点数が必要でした。私は、「全ての *Thayer's Greek-English Lexicon* のテストを受けたら、ギリシャ語で95点をくれることは、公平だと思いますか?」と聞きました。私は本気で彼を説得して、彼も同意してくれました。

その時私は、北バプテスト神学校¹⁶にいましたが、十分な時間とプライバシーを確保できるように、神学校から1マイル離れたホテルの部屋を借りて、*Thayer's Greek-English Lexicon* のページをめくり始めました。5年生のギリシャ語に入るまでに、新約聖書の全ての単語と一度は出会うことになるのですが、それは何千語もあり、見たこともないような単語でした。私は1週間ほどホテルに滞在し、時々、単語帳を持って散歩をしました。そして戻ってくると、「よし、準備はできたぞ」と言いました。シーセン教授は *Thayer's Greek-English Lexicon* をめくり始め、3ページごとに言葉を引っ張り出し、辞書全体の代表の単語として200語を示しました。それは辞書全体からの200語でしたが、私は89.5%の出来でした。よくできたと、彼は私に95点をくれました。

実は、この単語を準備して以来、私は読むことがずっと滑らかに、たやすくなりました。この時までには単語力が研ぎ澄まされたので、英語を読むように実践的に読めるようになったのです。*Thayer's Greek-English Lexicon* は5600語あるのですから、全ての人が暗記に取り組むわけではありません。でもこれは生涯にわたって有益でした。

私は日本で日本人にギリシャ語を教えました。一人の学生は、後にメイチェンのギリシャ語の教科書を翻訳しました。この教科書は、日本の多くのキリスト教の

16 北バプテスト神学校(Northern Baptist Theological Seminary)。1913年イリノイ州に設立。

学校で使用されています。私は、学問の領域で私をはるかに超える人々を訓練するという幸運を得ました。メイチェンのギリシャ語テキストを翻訳したこの女性は、才能溢れる女性でした。優秀で、時々教員の間違いを指摘するのです。田辺滋¹⁷ という女性です。

ホイートン・カレッジ時代のショービジネス

エリクソン その頃ホイートンでは、ショー・ビジネスを行う学生に対してどのような反応がありましたか。

フォックスウェル 「ムーディ聖書学院では、どのような反応だったか？」という前置きの質問が必要です。私の宣伝を見て、「フォックスウェルさん、こういうのは全部、クリスチャンになる以前の人生に属しているものですよ」と言われました。私が一生懸命に夜のショーを行った後、夜中の2時に燕尾服で入ってくるので、彼らは困惑していました。

ホイートンでは、私がキャンパスで何度かパフォーマンスをした後は、もう少し開放的な雰囲気でした。最近、私が1940年初頭に行っていた夜のショーの台本を見てみると、2時間半のショーで、私がボイラー脱出の演出なんかをしている間、聴衆は観覧してくれています。とにかく、ホイートンの雰囲気は私に合っていましたし、私もその時のホイートンに合っていました。ホイートンでは、ボブ・ジョーンズ大学¹⁸にはあったような演劇もありませんでしたし、映画を見に行ったりもしませんでした。私のマジックは程よく独特で、非常に高いレベルの反響と評価を得ました。

最初のパフォーマンスを行った時、一人の教授から、「君は、『ステージ』という言葉を使うべきではない。人々をステージの上に招いてはいけない」と言われ、私は「何百回のパフォーマンスで人々をステージに招いてきました。長年の習慣をやめられるかどうかわかりません」と答えました。そして、ホイートンでの親しい友人に、「僕にキャンパスで会ったときには、『やあ、フィル』とか『フォクシー、元氣?』

17 田辺滋 (1916-2016)。日本基督神学校、フェイス神学校、カベナント神学校で学び、東京基督神学校で教鞭を執る。訳書に、ジョン・グレシャム・メイチェン『新約聖書ギリシャ語原典入門』(新生運動、1967年)がある。

18 ボブ・ジョーンズ大学 (Bob Jones University)。1927年設立のサウス・カロライナ州にある超教派福音派大学。

とか言わないでほしい。『やあ、プラットフォーム』とか『元気、プラットフォーム?』と声をかけてくれるかい? この『プラットフォーム』という単語を頭に入れておきたいんだ」と伝えました。

エリクソン つまり、それが受け入れられる言葉だ、ということですか?

フォックスウェル そうです。人々をプラットフォームに招く、ということです。私たちは洗練されていなかったかもしれませんが、文芸会への高い情熱がありました。彼らは素晴らしく、人々は楽しんでおり、私自身もその頃は、貧しいとは思いませんでした。私たちは映画に行くこともありませんでした。良い生活を送り、大いに楽しみ、楽しみの中で人々は創造的だったと思います。

私たちは一度、ビリー・グラハムが住んでいたケン・ハンセン¹⁹の家でハロウィンパーティをしました。女の子たちを窓までハシゴで登らせて、というような危険なことをしました。私たちの創造性は、テレビといったようなものには汚されていませんでした。良い生活でした。私は高い評価をもらい、一方では、そういったことをしていました。

マジシャンというのは、偽物の頭を使って、それで欺いて、効果を出すんですよ。優れた芸術家のデウィット・(ウイスラー・)ジェイン²⁰がキャンパスにいて、彼が私の妹²¹の鼻の上にわらをかぶせて妹の顔の形のマスクを作り、木のマスクを作成して、そこに妹の顔を描きました。観客はピアース・チャベルの前席に座り、妹の顔をしっかりと見ているつもりなのですが、それは本物の顔ではないのです。

私はその当時、パフォーマンスへの高い評価を得ていましたが、それ以外にも自分でも気が付かなかった特別な強みがありました。私の優れたパフォーマンスを見た全てのホイートンの学生たちは、東海岸から西海岸へと広く出て行き、無報酬での宣伝を行ってくれました。休暇になると私はホイートンから出発して、東部でのスケジュールをこなしました。ホイートンの学生たちが計画を立ててくれたからです。

ですから、ホイートンは私によって良い場所でした。私は時々ふざけて、「僕は

19 ケネス・ハンセン (Kenneth Hansen 1918-94)。1941年ホイートン大学を卒業。クリーニング業を営み、ホイートン大学の理事も務めた。

20 デウィット・ウイスラー・ジェイン (Dewitt Whistler Jayne 1911-)。画家。1936年ホイートン大学に卒業後、母校で教鞭を執った後、カルフォルニア州立大学でも教鞭を執り、名誉教授となる。

21 バーバラ・コールマン (Barbara Coleman)。2013年、92歳で亡くなる。

二つの学位と学長の娘を手に入れたよ。他にこんなに良い場所がある？」と言っています。

ホイートン・カレッジの三銃士

エリクソン あなたとドン・ホーク²²、ケン・ハンセンは、三銃士と呼ばれています。それはどこからきた呼称ですか？

フォックスウェル 私はホイートンに来て、馬鹿げたことをたくさんしましたが、時々、良いこともしました。私は、「主よ、私の霊的生活を豊かにしてくれる友人を教えてください」と祈りました。そして、神様はその祈りを喜んでくださり、私にドン・ホークとケン・ハンセンという友人を与えてくれたのだと信じています。人間的な要素もいくつかあります。一つは、私たち全員が町の中に住んでいたことです。私たちは寮には住まず、町に住んでいました。それが一つの共通点です。それから私たちは、互いの良さを認めていました。私はドンの討論の技術や全てを高く評価していましたし、ドンとケン是我的マジックなどに少しばかり良い印象を持っていて、ケン・ハンセンは明確なリーダータイプの点が称賛できる男性でした。ケン・ハンセンと同じ教室にいたある時、より高い質の仕事をしなさい、と私達を叱る教師がいませんでしたが、そんな時に、「さあ、みんな。もっと質の高いペーパーを書こう」と後押しするのがケンでした。

また私たち三人は、ジム・グラハム²³という男性とも親しくしていました。ジェームズ・R・グラハムです。彼は中国で宣教師をしており、教える内容や評価の方法について独自のやり方があって、それが教務では非常に大きな重荷になっていました。けれども彼は、私たち三人にとっても大きなインスピレーションを与えてくれました。特に私たち三人に、です。電車でその場所に行きたかったわけではないのですが、彼と一緒に過ごすという目的のためだけにジムと一緒に電車に乗ったことがありました。ジム・グラハムがいたのは少しの間でしたが、彼は私達をつなぎ

22 ドナルド・ホーク (Donald Hoke 1919-2006)。ホイートン大学、ホートン大学院で学び、TEAM 宣教師として来日。1955年、日本クリスチャン・カレッジ (1966年に、東京キリスト教短期大学として発足) を設立。

23 ジェームズ・R・グラハム (James Robert Graham III 1898-1982)。中国への宣教師 James Robert Graham II (1863-1943) の子息として中国で育つ。中国で宣教を行っていたが、1938年当時はホイートン大学で教鞭を執っていた。

合わせてくれ、私たちに三銃士という名前をつけたと思います。私たちは、コレー(写真館?)に行き、三人で一緒に写真を撮りました。多分1941年に、ケン・ハンセンとドン・ホークと私がジム・グラハムのために撮影したこの写真を、私の著書の中で見ることができます。1940年か41年です。もう一枚、非常に最近の写真もあります。

私が「神様、私の霊的生活を助けてくれる友人が必要です」と祈ったので、神様が彼らを友人として与えてくれたのだと思います。彼らがそうしてくれたのです。彼らは二人とも、もし私が道を逸れそうになった時には、私を叱る準備ができている人たちです。私たちは共に祈り、共に交わり、そして今でもとても親しい友人たちです。私たち三人で一緒に本の形にまとめたいと思っています。

エリクソン 三人で一緒にしたいはずらは何かありましたか？

フォックスウェル 特別なことは何も思いつきません。楽しいことをたくさんしました。でも、いたずらではありません。私が仲間にタキシードを貸したことがあります。私が持っていたタキシードを、彼が寮のパーティで破いてしまったのです。それで、彼につき当てをしてもらいました。でも、いたずらとは……

エリクソン 違いますね。

フォックスウェル 特別なことはないですね。

エリクソン あなたが学生だった頃から、ホイートンは物理的な部分以外では、どのような変化がありますか？

フォックスウェル それは私にとって難しい質問です。私の子供たちがホイートンに来た時に、*The Record*²⁴を購読しました。私は彼らの考え方に合わせようとしたのですが、私の子供達は、しばらくホイートンからは距離をとっていました。私の孫が今ホイートンにいます。今、私がカレッジの考え方にぴったり合っているとは感じません。でも、親たちが子供をここに送る時に、子供たちの考え方に合わせる努力をするべきだと思います。私も子供たちがホイートンにいた時には、彼らと関わるために、時々 *The Record* を読んでいました。子供たちが戻ってきて会った時に、「お父さん、この分野については多分考え方を新しくしないとイケないね」と言われました。私の子供達はうまく成長し、皆、主に従っています。その理由の一つは、彼らの考え方に私たちが合わせる努力し、彼らがどこから来たのか、なぜ彼らが異なる観点を持っているのかなどを理解する努力をしたからだだと思います。若い人た

24 1876年から続く、ホイートン大学の学生新聞。

ちがホイートンにいる時には、キャンパスや影響などを私たちが理解しようとする必要があります。けれども今日のキャンパスの考え方は、私には合っていませんね。
エリクソン 孫娘さんと一緒にランチを食べるときがありますね。

フォックスウェル そう、孫娘とランチをとります。彼女に、どの専攻にするのかを聞きました。彼女は、「哲学専攻に興味がある」と言うので、私は、「クリスティン、哲学専攻で何をしたいの？」と尋ねました。でも彼女は別の専攻にしました。それは多分彼女の祖父の、いや、彼女の曾祖父の遺伝子の影響かもしれません。

義父オリバー・バズウェル²⁵

エリクソン その方は哲学者だったのですか？

フォックスウェル バズウェルは哲学者で、デューイとテナントの哲学について執筆し、コロンビアの大学院でジョン・デューイについて学びました。オリバー・バズウェルは哲学者で、この分野の執筆をしました。

エリクソン バズウェル博士があなたの義父になる以前は、彼についてどのような印象を持っていましたか？

フォックスウェル 私が初めてキャンパスに来た時、「良い成績だった。でも、バズウェル博士の倫理と神論では、低い成績だった」という叫び声を時々耳にしました。彼は、成績に厳しかったのでしょう。学生の考え方を理解することは、彼にとっては常に簡単だったわけではありません。彼の母親が彼に、「オリバー、学生と同じレベルに降りて来てコミュニケーションをするといいわね」と言っていたと聞きました。

私は彼のことをよく知っていて、彼を非常に尊敬していますし、敬服しています。オリバー・バズウェルを義父にできるというのは、誰にとっても本当に特権です。もし彼の人生に困難があるとすれば、それは彼自身が頑固である点です。頑固さというのは、良い方向にも働きますが、同様に、反対のこともあります。時々あるような「義理」ネタのジョークは、私には決して当てはまりませんでした。義父母と、とても良い関係を持っていました。告白すると、私は時々、義父が私に投げかけてくる、主格、目的格、属格、云々云々といった質問を恐れていました。私はこのよ

25 オリバー・バズウェル (J. Oliver Buswell, Jr. 1895-1977)。ホイートン大学3代目学長 (在職 1926-40)。著書に、*A Systematic Theology of the Christian Religion* (Grand Rapids: Zondervan, 1962)。など。

うな質問を少し心配して、彼から距離を置こうとしていたかもしれませんが、彼に対しては、尊敬と感謝の気持ちしかありません。私は彼を、自分自身の原則を持った人として見ていました。たとえそれが人間の視点からは犠牲の大きいものであったとしても、彼はその原則にとどまりました。

エリクソン 家族以外はよく知らないような、彼の人となりを表すような出来事が、義理の息子としてありますか？

フォックスウェル 彼は、関係性の前に原則を重んじる人だと思います。それが正しく、なすべき方法だと感じる時に、長く親しく一緒に働いてきた人たちとの関係をも断ち切る姿を時々見ました。彼の印象の一つは、同年齢の人たちがコミックを読んでいたような時に、弁証学を読んでいたに違いないというような人です。つまり、彼は早くから考える人であり、考察の世界に入って行き、自分の考えを持っていた人です。

大学院と神学校

エリクソン あなたはホイトンで修士を修了し、北バプテスト神学校へ行ったのですか？

エリクソン そうではありませんが、そのようなものです。私は午前中は北バプテスト神学校で神学士の学びをし、ホイトンに住んでいたのですが、午後はホイトンで修士の学びをしました。私はホイトンと北バプテスト神学校の大学院とで同時に取り組んでいました。そして、シカゴ・オーロラとエルギン鉄道で働きました。私は定期券があったので、ウェスト・ワシントン・ブルーバードの30番地……40番地に行くことができました。それでMAを外で、そしてBDをホイトンでと、同時進行で取り組みました。

エリクソン それらの教育を一緒に取り組まれたのですね。あなたは具体的には何をしようとしていましたか？あなた自身は、自分が何をしているとみなしていましたか？

フォックスウェル 私は、宣教地での教育者になるとは考えていませんでしたが、それも可能性のある選択肢だと捉えていました。日本は、多くの点で私たちよりも高い教育レベルにある国です。日本で教育を受けていない人を見つけるのは、アメリカでそのような人を見つけるよりもあり得ないことです。実際、私の奇妙な経験の一つは、自分の名前を書けない日本人の男性に出会ったことです。彼は煙突掃除

をする人でしたが、このようなことは、それまでありませんでした。

エリクソン ホイトンでの論文では、何について執筆しましたか？

フォックスウェル 従順についてです。一つの効果ある基準、効果ある信仰のただ一つの基準について執筆しました。ある時、私はギリシャ語聖書を読んでいました。そこには、「御子を信じる者は永遠のいのちを持っているが、御子に聞き従わない者はいのちを見ることがなく、神の怒りがその上にとどまる」(ヨハネ3:36)²⁶と書いてありました。従順についての非常に良いギリシャ語でした。信じるという言葉は、「ピステウオー」という単語ですが、その前に否定のアルファをつけます。これを思い巡らせた時に、興味深く思いました。なぜ「御子を信じる者は命を持ち、信じない者は……」とは言わないのでしょうか。

この偶然の出来事によって、私は修士論文に取り組みました。修士論文は私にとって、聖句を扱うために光を与えてくれるとても良いものでした。そして、ヤコブ書の「行いのない信仰が無益なこと」(ヤコブ2:20)の多くのことを解決してくれました。

私の論文の概要はこういうものです。信頼は根っこであり、従順は実です。これらは、聖書の中では、同義語のように入れ替わっていますが、同義語ではありません。しかしそれらは互いに近い関係にあるので、同義語として扱われています。私はこのことを、かなりよく調べました。それは私にとって、素晴らしい経験でした。信頼は根っこであり、従順は実である、ということを研究しました。後に、フラ神学校のダン・フラーがこれとよく似た立場から書いた論文が、書籍となりました。私はこの論文が良いと感じましたし、聖書学科長も気に入ってくれました。それは私を豊かにしてくれたと感じています。

エリクソン フェイス神学校²⁷にいた時には、他の論文を書く必要がありましたか？

フォックスウェル 北バプテスト神学校では、私はBDの論文として、奇跡と近代的な精神についての論文を書きました。本を何百冊も読み、案じながら書き始めました。私にはそれまで見てきた人たちのような能力がなく、どうなるだろうかと案じました。つまり、信仰と従順の論文は、聖書研究であり、言語の研究です。けれども、奇跡と近代的な精神では、奇跡に関しての全ての非キリスト教的な見解の全てに

26 本文中の聖書引用では、「新改訳聖書2017」(いのちのことば社、2018年)を使用。

27 フェイス神学校(Faith Theological Seminary)。1937年デラウェア州に設立され、現在はメリーランド州にある。

私自身を晒す必要があります。

カール・ヘンリー²⁸から「論文に何を書こうとしているのですか?」と聞かれ、「私は奇跡によって生計を立てて、奇跡について書こうとしているんです」と答えました。彼は北バプテスト神学校で教えていたのですが、「あなたは、奇跡について全くわかっていないですね」と言われました。一年か二年経ち、何百冊の本を読んだ後で、彼は正解だったと思いました。

彼と私は個人的な友人となりました。もし彼がパサディナを去るとしたら、去って行くかどうかを私に告げることなくドアのところに現れるでしょう。カール・ヘンリーやリンゼ²⁹は、単に私の教師であっただけではなく、友人でもありました。もちろん、私の人生を豊かにしてくれました。

独立長老伝道会

エリクソン フェイス神学校で TSM (Master of Sacred Theology) に取り組んでいる時はどうでしたか?

フォックスウェル 私は北バプテスト神学校の大学院生でした。そして、独立長老伝道会 (The Independent Board for Presbyterian Foreign Missions)³⁰ に属している女性と婚約していました。私は、「私の見解を独立長老伝道会に提出するよ。もしそれが認められたら、喜んで彼らと働こう。私は心では、分離主義だからね。でももし受け入れられなかったら、君はそこから出て、私たちはバプテスト委員会に行こう」と言いました。そして、嫌々ながらかどうかはわかりませんが、私は、北バプテスト神学校で BD を終えた後、独立長老伝道会に認められました。フェイス神学校へ行ったことをよかったと思っています。

エリクソン それは、長老派の学校でしたか?

フォックスウェル そこは基本的に長老派でした。私はフェイス神学校で、聖神学修士と四年の学士を得ました。(ドン・)ホークと(ケン・)ハンセンと私は、「晩

28 カール・ヘンリー (Karl Henry 1913-2003)。アメリカの神学者。1940年に北バプテスト神学校の教授に就任。

29 ハロルド・リンゼ (Harold Lindsell 1913-98)。神学者であり、*Christianity Today* の編集者。コロンビア・バイブル・カレッジ、北バプテスト神学校、フラー神学校で教鞭を執る。

30 独立長老伝道会 (The Independent Board for Presbyterian Foreign Missions)。1933年、グレシャム・メイチェン (J. Gresham Machen) によって設立された宣教団体。

年の反抗」ともいうようなもので、私たちの中の保守的教派の形式を取り上げて、「私たちは、保守的教派のやり方の中にあるようなものには満足していない」と話していました。

エリクソン 動機となったのは、控えめに言えば、奥様とのつながりですか？

フォックスウェル そうです。これらの諸事情をひっくるめて、私はそこに移りました。私たちは、そこでうまくいっていましたが、もし私がこの中で受け入れられなかったら彼女が去る、ということにも、彼女も同意していました。私の側では、私は誠実に自分の見解を説明し、もし彼らが受け入れてくれるならば、私はその時には心では分離主義だったので、独立委員会の立場には何の問題もありませんでした。私たち、つまりドンやケン、作家パール・バックの良さを認めていました。私たちは、パール・バックの神学やそういったものはホイートンの神学ではないと理解していました。私は、行くべき方向にきました。私は、オリバー・バズウェルと交流を持つ以前から、学者として、クリスチャン政治家として、彼を大いに評価していました。彼は教会会議が極端に走らないよう節度を保つといった場合に、とても影響力を持つ人でした。私は、「もし彼らとうまくできるなら、いいことだ」と考えました。そして、北バプテスト神学校を卒業した後、私は Japan Presbyterian Mission の議長になりました。少し話がそれましたね。

エリクソン 独立委員会での面接を覚えていますか？

フォックスウェル 私の存在は彼らにとっては荷が重いものだったと確信しています。私は、「洗礼を受けていない子供が洗礼を受けている子供よりも悪い、とは思っていません」などと言っていました。私は少し難しい存在だったかもしれません。私は、洗礼による新生の方法について特定の方法を持っていない長老派となんの問題もありませんでした。しかし、もし洗礼による新生に対して何らかの信念があれば、彼らと対立したり議論したりはしなかったでしょうが、何かを述べたでしょう。一度義父と話をした時に、彼は、「外的な儀式と必ずしも結びつく必要のある内的な恩恵はない」と言っていました。私は父と時々物事を議論しました。日本で一度、私はバプテストの友人と議論をしました。私は、「フレディ、もし私がバプテストの立場を議論したら、君が今している議論よりも、私は良い議論ができるだろうね」と言いました。

私は、ハロルド・リンゼル、カール・ヘンリー、そしてその時に学長だったコ

ラー³¹が教授の時に、北プテスト神学校に在籍したという特権がありました。コラーは、説教学の中で、絶対的に優れていました。偶然が重なり、人生の中で、私は7人か8人の説教学の教授から学びましたが、チャールズ・コラーはその中でも最高でした。私は、カール・ヘンリーが北バプテスト神学校で神学を教えていた時に、彼から説教学を学びました。

バプテストから長老派の立場に変更した小さな出来事としては、私がバプテストの神学校で座っていた時に、カール・ヘンリーから「バプテストの神学者ストロングは、混乱している。君は、ホッジを読んだほうがいい」と言われたことがあります。私はそこに座ったまま、考えました。「このバプテスト神学校にいる神学の教授は、なぜバプテスト神学を非難して、長老派に行ってみるようにと言うのだろうか」。北バプテスト神学校では、ペダー・スティアンセンというすばらしい教会史の教授がいました。彼は、幼児洗礼の欠陥について厳しく批判し、数分間、批判し続けていましたが、彼はフィリップ・シャフ³²については、それがまるで天国であるかのように語りました。私はそこに座りながら、「もし幼児洗礼がそんなにひどいものだとしたら、その聖なるフィリップ・シャフはどうしてそれに騙されているのだろうか？」というようなことを考えました。

北バプテスト神学校での経験によって、特にカール・ヘンリーに学ぶ準備となりました。私は、独立長老伝道会のところへ行き、自分の立場を提出し、「私はこれを信じていません」と言いました。とにかく、嫌々ながらどうかを私は言えませんが、彼らは私を受け入れてくれました。そして私は、日本の長老派神学校の設立者の一人となったのです。

エリクソン いつ独立長老伝道会が設立されましたか。

フォックスウェル 1933年頃だと思います。長老教会から聖職を剥奪された人たちがいたことを覚えています。独立長老伝道会にお金を流用することは、自分のものにする事と同じだと言われて剥奪されました。私は独立長老伝道会に行きました。私の義父はその委員会の活動的なメンバーでした。どのような助けとなる影響力があるかは言えませんが、もしそのような義父がその委員会にいたら、物事が順調に運ぶでしょう。それで物事がスムーズに運びました。つまり、オリバー・バズ

31 チャールズ・W・コラー (Charles W. Koller 1896-1983)。北バプテスト神学校で教鞭を執り、学長も務める。

32 フィリップ・シャフ (Philip Schaff 1819-93)。スイスで生まれ、ドイツで教育を受けた。教会史家。アメリカの Union Theological Seminary で教鞭を執る。

ウェルを義父に持つ人は誰でも、彼の模範や神学からくる間接的な付随的なあらゆる種類の利益を得るといえます。彼はすばらしい人でした。私は義父母と、何の問題もありませんでした。しかし先ほども話したように、私は義父と知り合い、「この人は、ほかの人がコミックを読んでいる時に、別の良い本を読んでいるような人だ」と思いました。そういった気持ちを抱かせる人でした。

宣教地の前訓練

エリクソン どのようなオリエンテーションや、宣教地のための前訓練を受けましたか？

フォックスウェル 私は夏に、ウィクリフ³³に行く機会を得ました。これはとても良いものでした。皆さんにも勧めたいと思います。彼らには、インド人の情報提供者がいましたが、1946年の夏、私たちは「日本人の情報提供者を連れてきたらどうか」とウィクリフを説得し、彼らはそのようにしました。私は他の日本語の本を見る前に、日本語のフォックスウェル文法書を執筆しました。その夏、私はケン・パイク³⁴やジーン・ナイダ³⁵たちと友人になりました。聖書翻訳者のジーン・ナイダです。クラレンスはチャブレンでした。良い経験でした。

エリクソン ウィクリフに行った時、原則的には言語の学びに合わせて、文化の学びもしましたか？

フォックスウェル 原則的には言語の学びです。しかし、必然的に、そこには強い文化的要素もあります。そのような言語プログラムは、私にとって、とてもすばらしい経験でした。彼らは、エスキモーの喉に光を当てて、その舌の位置を確認していました。ウィクリフに行ったことは、ジェーンと私が日本人に英語を教える時に、非常に役立ちました。つまり Th の音を出すためには、口の位置の図を描いて、歯の間から舌を出さなければならないと教えました。ウィクリフは多くの理由で私に

33 ウィクリフ聖書翻訳協会 (Wycliff Bible Translators) が行っていた夏期言語学講座 (Summer Institute of Linguistics) のことと思われる。

34 ケネス・パイク (Kenneth Lee Pike 1912-2000)。アメリカの言語学者、文化人類学者。1942-79年まで聖書翻訳のための国際 SIL (Summer Institute of Linguistics) 会長を務め、ノーベル賞にもノミネートされた。

35 ユージン・ナイダ (Eugene Nida 1914-2011)。言語学者。聖書協会世界連盟で指導的立場を務める。

とって有益でした。このオクラホマでの夏はとても良いものでした。

パイクがウィリアム・ケアリー大学での卒業式のスピーカーとなった時に、腹話術を始めるきっかけとして私の名前をあげてくれました。もちろん彼は、自分の声を使ってできる全てのことについて、私よりもはるかに先をいっていましたが、腹話術を始めたきっかけとして、私の名前をあげてくれたのです。私はウィクリフでは、パイクやナイダのような友人を作る機会を得ることができました。特に、パイクですね。最近、彼と連絡を取っています。

日本の宣教開始と東京基督神学校設立

エリクソン 日本で働くことを、どのように決断したのですか？

フォックスウェル 私は、「神様、私には捧げる命は一つしかありません。あなたの導きの光が必要です」と導きを求めて祈りました。妻と私はニュージャージーに行き、トム・ランビー³⁶（北米長老教会の中東への宣教師）と、このことについて話し合いました。彼と話しをして、良かったと思います。トム・ランビーはヨルダンで働いており、私たちととても親しくしてくれました。「結論から急いで言いましょう。あなたたちにホイートンの人たちのようになってほしくありません。あなたたちの雰囲気は、知的すぎます」と彼から言われました。妻と私は、「わかりました」と答えました。委員会は、私たちの中東への派遣を検討していました。それでトム・ランビーのところへ話に行ったわけですが、「お引き受けします」と答えました。

そして時が熟して報告を受け取りました。まるでもぎ取られるのを待っている熟したプラムのように、時が熟したのです。エリザベス・フィウエル³⁷という女性が、1937年にムーディ聖書学院にいました。その前に、日本で深い影響を受けていた彼女が「あなたは真の異教徒の国の本当の暗闇について、考えることもできないでしょう」と語った言葉のインパクトが、何年も私の心を占めていました。戦争が終

36 トーマス・ランビー (Thomas Lambie 1885-1954)。医療宣教師。1946年に独立長老伝道会に加わり、ナイジェリア、スーダン、パレスチナなどに派遣された。

37 エリザベス・アリス・フィウエル (Elizabeth A. Whewell 1904? -90)。1928年、セディ・リー・ワイドナーの美濃ミッションに赴任した宣教師。1946-90年まで、美濃ミッションの二代目管理者。フィウエルの生涯をたどった著作に、石黒次夫・石黒イサク『嵐の日本へ来たアメリカ女性—宣教師ベティ・フィウエルの軌跡』(いのちのことは社、2018年)がある。

わり、その機会が非常に大きいことを聞きました。「あなたは私たちの人生を、どのようになさりたいのでしょうか?」という主への祈りの答えだと私は信じました。日本への道が開かれ、私たちは、戦後の日本への最初の宣教師の一人となりました。私たちは、独立委員会の元での最初の宣教師でした。

その時私は、神学校を始めるというような特別な計画は持っていませんでした。しかし1949年、アメリカで大学院を終えた一人の日本人が来て、少し誇張表現ですが、「私たちには、神学的な神学校の気配が全くない」と訴えました。彼が意味していたのは、少なくとも、保守的な立場での大学院レベルの神学教育が全く不足している、ということです。私たちは1949年に大学院の教育を始めることにし、1949年の夏、委員会に尋ねました。「3,000ドルで始めることができます」。私たちには計画がありましたが、「5セントさえありません」との返事でした。1949年の夏、私は、ジョージ・パルマー³⁸と連絡を取りました。彼は、フィラデルフィアの地域で牧師をしていて、放送局とキャンプ場を持っており、スタッフもいました。「3,000ドルで神学校を始めることができる」と伝えると、彼は私たちに3,000ドルをくれました。

そして1949年の秋、日本で日本基督神学校を創設しました。それは最終的には、ドン・ホークの東京キリスト教短期大学³⁹と横浜の共立女子聖書学院⁴⁰と統合しました。認可⁴¹を受けた東京基督教大学は、ホークの短期大学と私の神学校、そして共立が合同したものです。ホークと私は親しい友人でしたが、思い描いていたよりもずっと大きな協力を成し遂げることができました。人間的な要素としては、これができるのは、ホークが穩健福音派の学長であり、私が日本聖書主義キリスト者協議会⁴²の理事長で、私たちの個人的な友情がこのことを成し遂げる助けとなったと

38 ジョージ・パルマー (George Palmer)。ニュージャージー州 Haddon Heights Baptist Church の牧師だった 1930 年代、キリスト教ラジオ局を開始。第二次世界大戦後、キャンプ ミニストリーとして発展した。現 Sandy Cove Ministries。

39 東京キリスト教短期大学。1950 年、日本同盟聖書学院として開校。1966 年、東京キリスト教短期大学が開校。1981 年に東京基督教短期大学に改称。

40 共立女子聖書学院。1881 年、偕成伝道女学校として開校。1907 年、共立女子神学校に改称。第 2 次世界大戦中、青山学院神学部女子部等と合同し、日本女子神学校になる。1951 年、共立女子聖書学院として再興される。1979 年閉校。その名称が、東京基督教大学附属の共立基督教研究所、及びキャンパス内の茶室「共立庵」に受け継がれている。

41 1990 年に四年生大学の認可を受けた。

42 日本聖書主義キリスト者協議会 (Japan Bible Christian Council 1951-67)、近代主義や共産

思います。

エリクソン 友情がそのような役目を果たしたということですが、それは日本の文脈では、功を奏しましたか？それとも、逆境となりましたか？

フォックスウェル 手短に答えるならば、少なくとも、友情はいつでも背景の違いや神学の違いを乗り越えるための助けとなりました。つまり、親しい宣教師の友人たちのことを考えてみると、個人的にとっても親しい良い関係を持っていたので、何年も、特定の神学的課題について語ることを避けていましたが、合同しようとした時、私たちには基本的な調和があることに気がつきました。

エリクソン あなたとジェーンにとって、日本語を学んだり話したりするのは、どちらの方が長けていましたか？

フォックスウェル 妻は子供の世話や家事があったので、私の方が彼女よりも機会がありました。それに私は、バカになったり、間違いを犯すことが難しいとは、あまり感じませんでした。学びのプロセスで、私はある程度の非難を喜んで受けましたし、より多くの機会がありました。ジェーンは、人々との関係性をとても愛していましたが、私の方が機会が多かったのです。私は日本人にギリシャ語を教えましたし、単語力も増やす必要があった、ということです。私の教科書には全て、日本語の単語がたくさん書き込んでありました。

エリクソン ご自身の著書の中で、あなたの日本語はデュベグ地方のアクセントがあると言及されていたと思いますが。

フォックスウェル そうです。私の日本語は、デュベグ地方のアクセントだと非難されていました。

エリクソン 日本語を間違えることはありましたか？

フォックスウェル 一度だけ、私が日本人のオペレーターとの電話で「んー、んー、んー」と口ごもっていた時に、オペレーターから、英語が話せるかと聞かれたことがありました。このことが私のやる気を引き上げました。その時、私は眠たかったので、もっとぼんやりして、少しばかり気取らない感じだったのだと思います。

エリクソン 歴史年表に戻りたいと思います。1949年の秋に、神学校を設立されたのですね。

フォックスウェル アメリカにいたことのある日本人が神学校にいました。この口

イ・ハセガワ⁴³という人が、私とジョン・ヤング⁴⁴の所に1949年の夏にやって来て、日本語での教育の必要があるということを話しました。彼は、東京エリアには神学校の気配がない、というようなことを訴えたと思います。彼は能力のある人でした。とにかく彼が、神学校に取り掛かるべきだと、私を説得しました。1949年の夏、私はジョージ・パルマーに電報を送り、「3,000ドルで神学校を始められます」と伝えました。宣教委員会はお金を持っておらず、ジョージ・パルマーがお金を募ってくれて、1949年の秋、私たちは始めました。

エリクソン 何人の学生で始めたのですか？

フォックスウェル おそらく8人か9人⁴⁵です。多分、水産業が何かのコースの途中にいた人たちです。一番最初に、この日本人がつてを持っていて、この人たちに連絡を取りました。彼が、この人たちをこのキリスト教の訓練のプログラムに連れてきました。その中の一人の女性⁴⁶は、今では教授であり、委員会に属しています。

エリクソン あなたが日本に到着した時のことを聞かせてください。

フォックスウェル 私たちが日本に到着したのは、1948年2月でした⁴⁷。私たちは1949年夏に神学校を始めるかどうかの投票を行い、1949年秋に開始しました。大部分は、独立長老伝道会によるものです。つまり、ジョン・ヤングと私、独身女性たち⁴⁸と、特にアメリカで神学校にいて彼と同じ思いを持つようにと私たちを頼りとしてきたこのロイ・ハセガワと言う日本人です。

43 長谷川真太郎 (1916-96)。ハンプデンシドニー大学、フェイス神学校で学ぶ。1947年、父親の自宅に堀之内キリスト教会を設立し、初代牧師に就任する。1949年10月、自宅に東京基督神学校を設立し、学監に就任する。1951年、東京基督神学校から分離した東京神学塾の学長に就任する。

44 ジョン・ヤング (John M. L. Young 1912-94)。カナダのアケイデア大学、フェイス神学校で学び、ウィルクス・バラ聖書学校、南京の霊修神学校でも教鞭を執る。ヤングの著に、『宣教師が観た天皇制とキリスト教』(燦葉出版社、2005年)がある。

45 第一期生入学者は、芦沢達、尾山令仁、小畑進、有賀寿、有賀豊二、加藤咲子、渡辺功、勝又智男。

46 加藤咲子：フェイス神学校で学んだ後、日本基督神学校で旧約学を教えた。

47 1948年2月2日、フィウエルの招きにより、三重県四日市港に入港した。

48 アン・クラウス (Anne Paxton Krauss 1918-2010)。ウィルソン大学、フェイス神学校で学び、東京基督神学校では旧約学等を教えた。アン・ウィグルスワース (Anne E. Wigglesworth 1915-95)。デラウェア大学、フェイス神学校等で学び、東京基督神学校では教会史等を教えた。二人は共に14年間、日本で宣教を行った。エベリン・リットルはコロンビア聖書大学で学び、東京基督神学校では教会音楽等を教えた。

日本でのゴスペル・マジック

エリクソン あなたが日本にいた最初の1年半の間、どのようなことをしましたか？
フォックスウェル 言語の学びと、そして会議にいる年配の宣教師たちに私たちが
 できることを知ってもらうことです。私は路傍で人々を集めることができましたが、
 集めた後は特に何かをすることはできませんでした。

エリクソン マジックはどうですか。

フォックスウェル そうですね。でも、日本人の牧師は、人々を集めることができ
 なかったのです。私は日本人の牧師とチームになって、そこで人を集めました。ト
 リックをするためには十分な日本語を知っていました。そして、日本人の牧師がコ
 ミュニケーションなどを取りました。

エリクソン 他の日本人のマジシャンはどうですか？ あなたはどうですか？

フォックスウェル 世界のある場所では、マジックをすることが迷信と関連のある
 良くないことだとされていますが、日本のデパートではマジックのコーナーがあり、
 ラスベガスで一番の実力者のシーグフリードとロイがジャンボ機で渡航してきて、
 3,000ドルのチケットとグッズを販売していました。私はマジックをすることが当
 然だとされる宣教地に行ったと言うべきでしょう。私は多くのことを行いました。

私はゴルベル・マジシャンと認識されて、招かれるところどこでも、ゴスペル・
 マジックをすることを期待されました。それは、良い治療法を500種類も持って
 いるのに、そのうちの50種類しか使えないように制限されている医師のようなも
 のです。つまり、私のできることを、ゴスペル・マジックに制限されていたと言え
 ます。

ゴスペル・マジックは私を本当に宣教地に向かわせたものの一つであって、私
 はゴスペル・マジシャンになりたくはなかったのです。多くの要素の中の一つと
 して私はマジックをしました。私は宣教地へ行き、外に出て、路傍で人々を集めま
 した。私が人々を集めて、日本人の牧師が説教などを行いました。人生のあらゆる
 場所で、私はマジックをしてきました。マジックは私に役立ってくれました。あれ
 これの理由があって再上演の機会を得た、と言えます。私は10年間バサディナで
 U. S. Center for World Mission⁴⁹を手伝っていました。20個ほどの大きなイリュ

49 1976年、グアテマラへの宣教師であったラルフ・D・ウィンターによってカリフォルニア州の
 バサディナに設立された。現在は、The Venture Centerと呼ばれている。

ージョンを持っていましたが、私が日本に到着したときに持っていたのは4つか5つでした。でもそれはまた別の話です。私はイリュージョンを他の人たちに貸し出し、それが私が証をするための架け橋となってくれました。

(後編に続く)

